

令和5年度 「学校生活に関するアンケート」結果の報告と今後の取組について【後期】

前期に引き続き、12月に後期の「学校生活に関するアンケート」を実施しました。それぞれの項目の達成率や前期の反省をもとに、改善に取組んできたことを報告いたしますとともに、今後の取り組みについて説明させていただきます。

令和5年度 学校アンケート結果（後期）

評価・・・A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そうおもわない ? 分からない

達成率・・・(A+B)/(A+B+C+D) × 100

			A	B	C	D	?	後期 達成率	前期 達成率	判定	
学習活動	1	保護者	先生は、教え方を工夫し、分かりやすい授業を展開している。	人 36	37	9	3	9	85.9	91.6	B
			% 38.3	39.4	9.6	3.2	9.6				
		児童	先生（せんせい）は、教（おしえ）え方を工夫（くふう）し、分（わか）りやすい授業をしている。	人 133	25	1	1	4	98.8	98.0	A
			% 81.1	15.2	0.6	0.6	2.4				
		教職員	教え方を工夫し、分かりやすい授業を展開している。	人 2	10	0	0	1	100.0	100.0	A
			% 15.4	76.9	0.0	0.0	7.7				
	分析・改善	児童・教職員の評価は、前期と同様良好な結果であったが、保護者の評価は、前期と比較して5ポイントほど低くなっている。このことは、授業内容が理解できていないのではないかと不安にさせる子供のつづやき（宿題が分からない・習っていない等）があるのではないかと考えられる。 【今後の取組】 ・学級通信や各種通信等で、積極的に授業の様子を発信する。 ・ホームページ等を利用し、「学力向上たより」を積極的に発信する。 ・教職員の積極的な研究授業の実施と研究協議を行い、授業改善と授業力の向上に努める。 ・放課後等の時間を活用した個に応じた学習支援の充実を図る。									
	2	保護者	お子さんは、家庭学習をきちんと行っている。	人 27	41	16	9	0	73.1	79.6	C
			% 29.0	44.1	17.2	9.7	0.0				
		児童	わたしは、家（いえ）できちんと宿題（しゅくだい）をしている。	人 134	24	3	3	0	96.3	94.4	A
			% 81.7	14.6	1.8	1.8	0				
教職員		学校は、家庭と協力して、家庭学習の充実を図っている。	人 2	11	0	0	0	100.0	92.3	A	
		% 15.4	84.6	0.0	0.0	0.0					
分析・改善	前期同様、児童・教職員の達成率は90%を超えているが、保護者の評価は、前期より5ポイント以上下がっている。C、Dの評価においては、児童6名、教職員0名に対し、保護者は25名となっており、「家庭学習をきちんと行う」ことを保護者がどう捉えているかによって評価が変わるのではないかと考えられる。 【今後の取組】 ・教職員による研修等で、学年や発達段階に応じた宿題の出し方の見直しを行い、共通理解を図る。 ・保護者に児童が家庭学習（宿題）を行ったことを、検印カード等で確認していただく。 ・親子読書（うち読の活用）など、親子で取り組める課題を設定する。										
3	保護者	お子さんは、読書を積極的に行っている。	人 21	24	26	22	1	48.4	49.5	C	
		% 22.3	25.5	27.7	23.4	1.1					
	児童	わたしは、進（すす）んで読書（どくしょ）をしている。	人 74	48	31	8	4	75.8	84.7	C	
		% 44.8	29.1	18.8	4.8	2					
	教職員	学校は、読書活動を充実させる取組を行っている。	人 4	8	1	0	0	92.3	100.0	A	
		% 30.8	61.5	7.7	0.0	0.0					
分析・改善	保護者については、前期同様、50%を切る低い評価となっている。また、児童の評価が、前期よりも10ポイント近く下がっている。前期と同様に児童の読書離れと家庭での読書習慣が身に付いていないと考えられる。 【今後の取組】 ・月曜日と金曜日の「朝読書」の実施状況の確認や読書活動の必要性について、教職員の共通理解を図る。 ・「おすすめの本」の紹介の継続と掲示場所や大きさ等、アピールの工夫を行う。 ・「うちどくの日」「読書の日」の実施状況や継続するための有効な在り方について職員研修を行う。 ・みきゃん通帳や自主学習ノート、感想用紙などにひとこと書評を書く習慣を付け、読むことのおもしろさや友達と考えを共有する楽しさを味わわせる。 ・みきゃん通帳や確認カード等を活用し、借りている様子を積極的に伝える。										

学校生活・生徒指導	4	保護者	お子さんは、楽しい学校生活を送っている。	人	41	46	4	1	1	94.6	92.9	A
		%	44.1	49.5	4.3	1.1	1.1					
		児童	学校(がっこう)の生活(せいかつ)は、楽(たの)しい。	人	126	27	9	2	1	93.3	93.8	A
		%	76.4	16.4	5.5	1.2	1					
		教職員	子供たちは、楽しく学校生活を送っている。	人	5	8	0	0	0	100.0	100.0	A
		%	38.5	61.5	0.0	0.0	0.0					
	分析・改善	<p>前期同様、保護者、児童、教職員ともに90%以上の高い評価が得られている。しかし、学校生活が楽しいと思えない児童の数に好転が見られない。今後も、児童一人一人を大切に、自己肯定感・自己有用感が高められる取組を継続していく必要があると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を実施し、保護者との連携を迅速に取りながら情報の共有を行う。 ・授業や集会活動を工夫することで一人一人に活躍の場を与え、児童の自己肯定感を高める場を設定する。 ・児童が活動している様子を、学級通信やホームページで積極的に発信する。 										
	5	保護者	お子さんは、元気なあいさつや時と場に応じた言葉遣いができている。	人	13	52	23	3	2	71.4	75.5	C
		%	14.0	55.9	24.7	3.2	2.2					
		児童	わたしは、元気(げんき)なあいさつや正(ただ)しい言葉(ことば)づかいができています。	人	94	57	8	1	5	94.4	90.2	A
		%	57.0	34.5	4.8	0.6	3					
		教職員	子供たちは、元気なあいさつや時と場に応じた言葉遣いができている。	人	0	11	2	0	0	84.6	78.6	B
%		0.0	84.6	15.4	0.0	0.0						
分析・改善	<p>児童からは、94%以上の高い評価が得られ、前期よりも向上が見られる。教職員の評価も前期から5ポイント以上の向上が見られたが、保護者の評価は、若干の低下が見られた。「あいさつ運動」を月ごとに集計し、通学班ごとの達成率で頑張っている地区を児童玄関に掲示したり、昼の放送で発表したりしたことで、あいさつの声が大きくなり、児童と教職員の評価が高くなったと考えられる。しかし、保護者の評価が4ポイント低くなっており、家庭や地域でのあいさつの声や積極性が欠けていると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつグランプリ」の継続と保護者、地域へ各種通信で発信する。 ・「新谷ことば」のさらなる啓発活動と校内掲示の工夫を行う。 ・「あいさつ運動」だけでなく、授業や集会活動での返事や言葉遣いにも価値を見い出せる指導を行う。 											
6	保護者	学校は、子供の話や相談にきちんと対応している。	人	21	47	14	2	9	81.0	83.3	B	
	%	22.6	50.5	15.1	2.2	9.7						
	児童	困(こま)ったとき、先生(せんせい)は相談(そうだん)にのってくれる。	人	129	24	4	1	7	96.8	94.7	A	
	%	78.2	14.5	2.4	0.6	4						
	教職員	学校は、子供や保護者の悩みに対して、きちんと相談にのっている。	人	6	7	0	0	1	100.0	92.9	A	
	%	42.9	50.0	0.0	0.0	7.1						
分析・改善	<p>児童・教職員の評価は、前期から若干の向上が見られるなど高い評価となっているが、保護者の評価については、2ポイントほど低くなっている。学校と家庭との連携について、更に深めていく必要があると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での児童の様子について、家庭連絡を積極的に行い、家庭との信頼関係づくりに努める。 ・教育相談週間を設定し、児童に寄り添った教育相談を実施する。 ・全教職員が、児童一人一人と積極的に会話やコミュニケーションを取り、何でも話せる雰囲気づくりに努める。 											

健康・安全	7	保護者	学校は、いじめを許さない教育に取り組んでいる。	人	20	49	8	4	12	85.2	86.5	B
		%	21.5	52.7	8.6	4.3	12.9					
		児童	どんな理由(りゆう)があっても、いじめはいけないことだと分(わ)かって生活(せいかつ)している。	人	151	9	2	2	1	97.6	95.5	A
		%	91.5	5.5	1.2	1.2	1					
		教職員	学校は、いじめの早期発見に努め、早期解決・再発防止に取り組んでいる。	人	7	4	1	1	0	84.6	92.9	B
		%	53.8	30.8	7.7	7.7	0.0					
	分析・改善	<p>児童と保護者の評価は、前期と比較して大きな変化は見られなかったが、教職員の評価は5ポイント以上の低下が見られた。今後、教職員の共通理解と共通実践が必要であると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議における情報交換の充実や臨時職朝を設定し、教職員間の共通理解と組織的な対応に取り組む。 「いじめ」についての教職員研修を実施し、共通認識と理解を深める。 いじめ撲滅に向け、標語及びのぼり旗を作成し、「いじめ0の日」にのぼり旗を掲げて委員会等で呼び掛けを行うことで、児童の意識高揚を図る。 家庭との連携を迅速に行う。 										
	8	保護者	お子さんは、学校のきまりや交通ルールを守って生活している。	人	30	53	8	0	1	91.2	94.7	A
		%	32.6	57.6	8.7	0.0	1.1					
		児童	わたしは、学校(がっこう)のきまりや交通(こうつう)ルールを守(まも)って生活(せいかつ)している。	人	139	22	0	1	2	99.4	98.3	A
		%	84.8	13.4	0.0	0.6	1					
		教職員	子供たちは、学校のきまりや交通ルールを守って生活している。	人	2	9	2	0	0	84.6	71.4	B
%		15.4	69.2	15.4	0.0	0.0						
分析・改善	<p>保護者、児童の達成率は、前期同様90%を超えており、なお高い状況にある。前期は、教職員の評価が低かったが、後期は評価基準の見直しと共通理解を図ったことで10ポイント以上の向上につながったと考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校指導について見直しを図り、地域と連携して実施できる体制を整える。 教職員及びPTA専門委員会等による通学路の点検と通学方法の再確認を行う。 学校生活のきまりや交通ルールについて定期的な確認を行い、必要に応じて迅速に全体指導を行う。 											
9	保護者	お子さんは、「早ね・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣が身に付いている。	人	31	41	18	3	0	77.4	83.8	C	
	%	33.3	44.1	19.4	3.2	0.0						
	児童	わたしは、「早(はや)ね・早起(はやおき)・朝(あさ)ごはん」ができています。	人	86	61	14	3	1	89.6	87.6	B	
	%	52.1	37.0	8.5	1.8	1						
	教職員	子供たちは、基本的な生活習慣が身に付いている。	人	2	10	0	0	1	100.0	71.4	A	
	%	15.4	76.9	0.0	0.0	7.7						
分析・改善	<p>児童の評価に大きな変化はなかった。前期に評価の低かった教職員については、評価基準の見直しと共通理解を図ったことで、大幅な向上が見られた。しかし、家庭での基本的な生活習慣の定着には至っていないため、保護者の評価は5ポイント以上低下したのではないかと考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も生活リズムチェックを続けるとともに、「保健だより」等を通じて家庭への啓発を継続して行う。 生活リズムチェックに書かれた家庭からのコメントを「保健だより」に掲載するとともに、保護者の思いを伝えるコーナーと内容を工夫する。 											

家庭・地域連携	10	保護者	学校は、家庭や地域と連携して体験学習などの教育活動を行っている。	人	30	51	7	1	4	91.0	90.3	A
		%	32.3	54.8	7.5	1.1	4.3					
		児童	地域(ちいき)を知(し)る学習(がくしゅう)や地域(ちいき)の人(ひと)と一緒に(いっしょ)に行(い)う学習(がくしゅう)は楽(たの)しい。	人	135	18	4	2	4	96.2	96.0	A
			%	82.8	11.0	2.5	1.2	2				
		教職員	学校は、家庭や地域と連携して体験学習などの教育活動を行っている。	人	7	6	0	0	0	100.0	100.0	A
			%	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0				
	分析・改善	<p>前期・後期共に、保護者、児童、教職員の全てにおいて評価が90%を超えており、高い状況である。コミュニティ・スクールのメリットを生かした、地域コーディネーターを有効に活用できていることが大きいと言える。また、地域ボランティアの方々が、様々な教育活動に関わっていただいているおかげもあると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の様子をホームページや校報等、各種通信で紹介する。 今後も地域ボランティアの方々や各種団体などとの関係を図り、地域ともにある学校づくりに努める。 										
	11	保護者	学校は、教育活動の様子をホームページ等を通して家庭や地域に積極的に配信している。	人	52	38	3	0	0	96.8	95.9	A
		%	55.9	40.9	3.2	0.0	0.0					
		児童	わたしは、おたよりなどをきちんと家(いえ)の人(ひと)にわたしている。	人	110	37	12	4	2	90.2	95.5	A
%			66.7	22.4	7.3	2.4	1					
教職員		学校は、教育活動の様子を家庭や地域に積極的に配信している。	人	8	5	0	0	0	100.0	92.9	A	
		%	61.5	38.5	0.0	0.0	0.0					
分析・改善	<p>前期・後期共に、保護者、児童、教職員の全てにおいて評価が90%を超えており、高い状況である。ホームページのリニューアルに伴い、「お知らせコーナー」など新設コーナーを開設できた。今後も早めのブログ更新と継続的な学校だより、学級通信等の発行を行っていく必要があると考えられる。</p> <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の活用方法やE I L Sの活用事例など、各主任から出される情報データを全学級で共有し、学級通信等で発信する。 ホームページの「新谷小日記」(ブログ)には、行事や児童会活動の記事だけでなく、各学年の授業の様子を積極的に配信したり、「学力コーナー」の新設を行うなどして、有効な情報発信に努める。 											